プラン・ニュース［2018 Autumn］NO.109

PLAN NEWS



支援者インタビュー

有働由美子さん

フリーアナウンサー、ジャーナリスト

ウガンダを訪れて

国際ガールズ・デー特集

映画上映会や
トークイベントを開催

プランのコミュニティ開発

グアテマラ

ジェンダー平等
トレーニングに参加した
チャイルドの今

発行：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

支援者インタビュー

有働由美子さん

フリーアナウンサー、ジャーナリスト



お土産を手渡す有働さん。「何がいいのか悩みました」とのことでした。日本らしい巾着袋や扇子などを受け取った家族もうれしそう

Profile

うどうゆみこ
1969年、鹿児島県生まれ。1991年NHK入局。「NHKニュースおはよう日本」「スタジオパークからこんにちは」などの番組を担当し、紅白歌合戦の司会も務める。2007〜2010年ニューヨーク特派員。2010年3月より「あさイチ」のキャスターを担当し、お茶の間の人気者に。2018年3月にNHK退社。

2018年8月、スポンサーとして交流する女の子に会うため、
またジャーナリストとして
「南スーダン難民の子どもの保護プロジェクト」を取材するため、
ウガンダ北部を訪れた有働由美子さんにお話を聞きました。

聞き手：広報マーケティング部　寺田聡子 職員　撮影：金井塚太郎

「私を優しい人間にしてくれて、本当にありがとう」と、子どもたちに言いたい。

寺田（以下略） プラン・スポンサーシップを通じて支援を始めたきっかけについて教えてください。

有働由美子さん（以下名前と敬称略） もともと子どもが大好きなので、子どもを支援したいという気持ちがずっとありました。そんななか、子どもに手紙を送ったり視察に訪れたりと、プラン・スポンサーシップが「顔が見える支援」であるところに惹かれました。今回のように実際にチャイルドに会うと、成長を実感できる気がします。それに、いつかまた大きくなった彼女に会うことができたら、それはすごいことです！

――顔が見える支援が大切だと感じるのは、なぜでしょうか？

有働 「つながっている」という感覚があるのがとてもいいと思います。東日本大震災や熊本地震の被災地支援もしているのですが、取材を通して知り合った方々の顔を思い出すとつながりを感じ、支援の実感も沸いてきます。また、私自身の仕事にも影響を与えると思います。たとえば、アナウンサーとしてこれまで何度も南スーダン難民のニュースを読みましたが、今考えてみると実感が不足していた気がします。でも、実際に難民居住区を訪れたあとならば、「あのとき出会った、あの人たち」の顔を思い浮かべながらニュースを読めると思うのです。自分が伝えるニュースの対象の人々とつながる、というのはとても大切だと考えます。

――実際に難民居住区を訪問して、どのような感想を？

有働 プランの活動現場を見て、息の長いきめ細やかな支援をしているのがよく伝わりました。報道は大々的な支援現場ばかりを扱いがちですが、こうした地道な活動こそ重要だと思います。そして、忍耐強いきめ細かい支援は、日本人に合っていると思います。日本の経済力や体力が失われつつあり、「大きな支援額」が難しくなるなかで、新しい日本の支援のかたちとして参考になるのではないでしょうか。

――現場で働いている職員と交流していただきましたが、印象は？

有働 日本から派遣されている、2人のプラン職員の女性に会いました。彼女たちはまだ30代前半。その若さで、いろいろな関係者と現場を切り盛りする。現場で働くし、全体の管理もする。これは完全なプロデューサー業務です。日本にもこんなに優れた人材がいることは、日本もまだまだ希望がもてると感激しました！

――難民の方々と直接言葉を交わすことも多かったなか、一番印象に残ったことは？

有働 16歳の難民の女の子に出会ったことです。彼女は南スーダンで両親と離ればなれになり、頼る大人もいない状況で、幼いきょうだいたちを連れてウガンダになんとか逃げてきました。その後、母親を探すためにたった一人で南スーダンに一度戻るのですが、会うことはできませんでした。ウガンダの難民居住区に戻ってくるまでの過程で、彼女は妊娠します。たった一人で、国境付近まで母親を探すために出かけ、危険な地で頼る人がいないときに、誰か大人の男性の庇護を受けた結果、妊娠したのです。彼女はまだ16歳の子どもです。こうした深刻な状況は、やはり変えなくてはなりません。そのために必要なのは、世界の問題を自分のこととして考えることができる「想像力」だと思います。テレビ放送に関わる自分の仕事を通じて、これからも皆さんに考えてもらえるきっかけを発信していきたいです。

――初めてチャイルドのアンジェラちゃんに会って、どんな気持ちになりましたか？

有働 車の中から一張羅のドレスを着たアンジェラちゃんを見たときに、ちょっと泣きそうになってしまいました。自分で産んだわけでもないのに、懐かしいような、やっと会えたような不思議な感情でした。そうしたら感慨に浸る余



南スーダン難民居住区で。子ども好きな有働さんは行く先々で子どもたちに取り囲まれました



チャイルドのアンジェラちゃん（2歳）と母親と共に。父親は病気で亡くなり、アンジェラちゃんは母親と姉、継母の家族と一緒に暮らしています。母親は「日本から誰かが来てくれるなんて思ってもみなかった。あなたはもう私たちの家族です」と言って、有働さんを温かく迎えました



16歳の難民の女の子、ヘレンさん（仮名）と話す有働さん。「彼女のような子どもたちがいることを知ること、そして伝えることが大切」



ウガンダ式の歓声とともに、村の大歓迎を受ける有働さん。有働さんのために、子どもや村の女性たちが歌と踊り、お芝居などを披露しました



現地に駐在し、プロジェクトを管理している西田職員と。難民居住区の実情や活動の詳細を聞く有働さん

お知らせ

有働由美子さんのウガンダ訪問のレポートを
ウェブサイトでもご覧いただけます
https://www.plan-international.jp/special/udou-yumiko/

プラン・スポンサーシップへのお申し込みはこちらから
https://plan-international.jp/join/sponsor/

グローバル・プロジェクトへのお申し込みはこちらから
https://plan-international.jp/join/global/

スタッフレポート

西田亜理沙職員 プログラム部（ウガンダ駐在）

「いつのまにか子どもと鬼ごっこに興じたり、地域のお母さんたちと一緒に踊ったり、軽々と国の違いを越えてしまった有働さん。楽しみにしていたチャイルドとの面会では泣かれてしまいましたが、お母さんは「あなたは私の家族」と有働さんとすっかり打ち解けました。南スーダン難民の大変な状況にある子どもたちへのインタビューでは、ひとつ一つ質問する言葉を選びながら、丁寧に話を聞かれていたのがとても印象的でした」と我慢して、他者をサポートする人生は実はとても豊かなことなんだと実感しています。「私を優しい人間にしてくれて、本当にありがとう」と言いたいですね。

世界の問題を自分のこととして考える「想像力」が大切だと思います。



ヘレンさんとその娘、きょうだいと。「まだ子どもなのに、子どもやきょうだいを面倒みている彼女の姿に胸を打たれた」と有働さん

裕もなく、村の方々の大歓迎を受け、それに巻き込まれ（笑）。お母さんにしがみついて泣いているアンジェラちゃんを見て、この子には教育を受けられなかったために望まない妊娠をしてしまったりするようなことが起きないよう、自分で選んだ人生を歩んでほしいと心の底から願わずにはいられませんでした。

――村の様子はいかがでしたか？

有働　裸足に破れた衣服を着た幼い子どもが赤ちゃんをおぶってあやしている光景を見て、子どもたちの力強さと優しさを感じました。私のあげたお土産を子どもたちが自発的にみんなで分けていたのも印象的で、子どもたちが自然と助け合っていることに、この地域のパワーを感じました。

――スポンサーになるとは、有働さんにとってどんなことですか？

有働　実際に子どもに会う前は、「自分が何かしてあげる立場」のような気がしていました。でもそうではなくて、むしろチャイルドや家族から、自分が何かをもらえることのほうが大きいと思いました。「小さいけれど自分が誰かの役に立っている」ということ、「遠い国の誰かに気持ちを寄せられる人間でいることができるんだ」と思うことが、自分を勇気づけてくれる気がします。自分の何かをちょっ

第7回 国際ガールズ・デーは「早すぎる結婚」をテーマに

女の子の権利やエンパワーメントの促進を、広く国際社会へ呼びかけるための国際ガールズ・デー。
より多くの方に知っていただくため、今年は女の子の権利を侵害する「早すぎる結婚」をメインテーマに掲げ、メッセージを発信します。

「早すぎる結婚」を逃れた女の子が来日

シーラさん　19歳　大学生

今回、バングラデシュで「早すぎる結婚」を逃れた経験をもち、その防止のための活動を行っている大学生の女の子が来日し、自身のことや活動について語ります。プランがシーラさんの住むダッカで活動を開始したのは彼女が5歳のとき。教育支援などを受け、子どもクラブにも参加し、リーダーとして仲間たちと「早すぎる結婚」を防止する活動に取り組みました。13歳のときに、自身も「早すぎる結婚」を決められましたが、叔父の家に逃げて回避。学び続けよい成績を残すことでようやく両親の理解を得ることができました。

シーラさんからのメッセージ

「日本の皆さんとお会いするのがとても楽しみです。私の経験を話したり、皆さんのお話をたくさん聞きたいです」





学校を中途退学した女の子を訪問するシーラさん

まだ十分ではない「早すぎる結婚」への対策

「早すぎる結婚」は、教育や社会参加の機会喪失、妊娠・出産による健康被害、嫁ぎ先での暴力などさまざまな問題が指摘されています。このため、「早すぎる結婚」の防止は女の子の人権侵害として、持続可能な開発目標（SDGs）にも含まれています。過去10年で大幅な改善がみられる一方で、いまだに多くの女の子が「早すぎる結婚」をしており、このままでは目標達成にいたらないと、ユニセフなどは警鐘を鳴らしています。

「早すぎる結婚」が多いバングラデシュ

現在、18歳未満で結婚した女性は全世界で6億5千万人（※1）いるとされています。その4割を占めるのが南アジアの国々です。南アジアのなかでも、もっとも「早すぎる結婚」が多いのがバングラデシュといわれており、20歳～24歳のうち、18歳未満で結婚している女性は59％（※2）にのぼっています。

バングラデシュでのプランの取り組み

「早すぎる結婚」のリスクが高い年代の男の子や女の子がグループを形成し、子どもに「早すぎる結婚」をさせようとしている親たちを説得したり、地域の人々を対象にその弊害やリスクについて、意識啓発活動を行ったりしています。教育が「早すぎる結婚」を防ぐ有効な手段とされていることから、女子教育も推進しています。

※1 出典：Child Marriage: Latest trends and future prospects UNICEF July 2018　※2 出典：Global Databases Child marriage UNICEF March 2018

今年も「国際ガールズ・デー」を六本木から応援します！

六本木地域に拠点をもつ企業とともに、国際ガールズ・デーのある10月に
Because I am a Girl 2018を展開。「早すぎる結婚」をはじめとする女の子たちが直面する
困難について深く知り、広めていただくために日本各地での映画上映会や写真展を開催します。



国際ガールズ・デー
Because I am a Girl 2018
チラシ

【イベント】

一青窈さんも登壇！

国際ガールズ・デーイベント　Because I am a Girl 2018 in バーニーズ　ニューヨーク六本木



映画『ソニータ』に心動かされた歌手の一青窈さんを迎えて、「早すぎる結婚」をテーマに、映画配給会社ユナイテッド・ピープル代表の関根健次氏とプラン理事大崎麻子がトークイベントを行います。当日は、バングラデシュから来日したシーラさんも登壇し、自身の活動について語ります。どうぞお楽しみに。
日時：10月11日（木）18：30～19：30
場所：バーニーズ　ニューヨーク六本木店
※店舗内でのお立ち見となります。申込は不要ですので、直接店舗へお出かけください

写真展「角田光代が見たヨルダンのシリア難民」

開催期間：10月4日（月）～18日（木）12：00～19：00（定休日あり）
場所：YellowKorner Showroom & Shop（IMA CONCEPT STORE 内）

Because I am a Girl エンジェル

「森星が出会ったフィリピンの女の子たち」

開催期間：10月4日（木）～11日（木）11：00～21：00
場所：イセタンサローネ/東京ミッドタウン ガレリア店内に展示

【映画上映会】

全国各地で、映画『ソニータ』の上映会を開催

2016年サンダンス映画祭ワールドシネマ部門のグランプリ作品『ソニータ』の上映会を各地で開催します。難民として他国で暮らす女の子ソニータが、「早すぎる結婚」を逃れ、自らの力で夢への道を切り開く様を追ったドキュメンタリーです。ぜひお近くの上映会に足をお運びください。上映会の詳細は下記ウェブサイトをご覧いただき、各主催者へお申込みください。
http://unitedpeople.jp/sonita/igd2018



主人公のソニータからのメッセージ

「国際ガールズ・デー、おめでとうございます。早すぎる結婚をなくすために、みんなで声をあげていきましょう。女の子のために活動しているプラン・インターナショナルに感謝します」　～一部抜粋

※メッセージ動画は10月12日以降下記サイトで公開します。
https://www.plan-international.jp/girl/idg2018/

国際ガールズ・デーにむけたアクション

世界22都市の安全度を調査しました。ランキング結果を含め、これまで取り組んできた「女の子と若い女性にとっての安全なまちづくり」プロジェクトの成果などをまとめたガールズ・レポートを国際ガールズ・デーに合わせて発行予定です。こちらのウェブサイトからご覧ください。
https://www.plan-international.jp/news/girl/
日本でのアクションについては、P13をご参照ください。

2018年「国際ガールズ・デー」のアクション、イベントの進捗と報告はウェブサイトでご覧いただけます。
https://www.plan-international.jp/girl/idg2018/

グアテマラ

ジェンダー平等のトレーニングで女の子がパワーアップ

人口約37万人の6割以上が貧しい暮らしを強いられているグアテマラ南東部のハラパ活動地域で、プランは1997年に活動を開始しました。さまざまな支援のなかで、今回は性と生殖に関する健康やジェンダー平等推進の意識啓発が地域の女の子にどのような変化をもたらしたのか、ひとりのチャイルドの「今」を通じてレポートします。



ジェンダー平等のトレーニングの様子



今回紹介するのは…
性と生殖に関する健康とジェンダー平等の啓発

プラン・インターナショナルは、若者、とりわけ農村地域に暮らす先住民の女の子が、性と生殖に関する健康サービスを利用することができ、性暴力や早すぎる結婚から守られることを目指しています。そのため、若者のネットワークづくりや保護者、先住民族リーダー、行政による取り組みを後押しています。たとえば、地域において、性と生殖に関する健康やジェンダー平等の理解促進などの啓発を行っています。

また、女の子グループや住民を組織し、子どもや若者が社会のなかで尊重され意思決定に参加できるよう支援しています。

グアテマラってどんな国？

国民の約4割を先住民族が占める、多文化の国。中米でもっとも長いとされる内戦は36年間続きました。地震、火山噴火、ハリケーンなどの自然災害が多い国でもあります。他の中南米の国々と同じく、マチスモ（男性優位主義）※が広く根付いています。

※ラテンアメリカを中心にみられる「伝統的な男らしさ」を強調する考え方・生き方

グアテマラの女の子が抱える問題

ジェンダーの不平等

とくに農村地域の先住民の女の子はもっとも脆弱な立場に置かれており、子どもの権利を享受できていません。

早すぎる結婚の増加

女子教育の重要性に対する理解が不足しており、先住民の女の子の中途退学率が著しく高く、早すぎる結婚が増加しています。

性的虐待や暴力

女の子に対する性的虐待・暴力が蔓延し、子どもや若者があらゆる暴力の危険にさらされているなか、子どもの保護システムが未整備です。

女の子の多くが力をつけています！

皆木昭宏職員 プログラム部（グアテマラ駐在）

「暴力」をテーマに子どもたちに絵を描いてもらったところ、男性が女性を殴る絵がたくさんありました。身近なところで男性から女性への暴力を頻繁に目撃しているからです。女性は「殴られる弱い存在」という刷り込みが、何世代にもわたり続いているのです。

そんななか、プランが長くジェンダーに関する意識啓発を行った地域では、男女の意識が変化しています。ジェンダー平等のプロジェクトに参加した女の子の多くが、地域のリーダー的存在となり、ロールモデルとして自分たちの力を発揮していることに希望がもてます。



プランでワークショップの準備を行ったりコンサルタント業務を担当しているエリザベスさん。チャイルドの「一年の歩み」も作成しています

SPECIAL INTERVIEW

ジェンダー平等の啓発活動に参加した元チャイルドがプランの職員に

グアテマラでスポンサーシップ業務のアシスタントとして働くエリザベスさん（22歳）は、元チャイルド。
今はプランで働きながら大学進学を目指しています。
プランからどんな影響を受けたのか、語ってもらいました。

―職員になった経緯と現在の仕事を教えてください。

高校を卒業して3年半、ハラパ活動地域で、ジェンダー平等のトレーニングや子どもの保護の知識を普及する活動でプランの手伝いをしていました。そうした経緯からプランの職員になりました。今は、グアテマラ・シティの国統括事務所でチャイルドとスポンサーの通信物を担当しています。

―チャイルドになったのは何歳のときですか？

6歳のときにプランのチャイルドになり、18歳でチャイルドを卒業しました。両親は自分たちが小学校を卒業できなかったので、教育を含めたさまざまな支援をしてくれるプランに協力的でした。私の母はプランのコミュニティ・ボランティアとして、地域の子どもと若者の健全な育成と保護に関する活動に長い間たずさわっており、今でもプランと活動しています。

―プランのどんな活動が印象深いですか？

思春期になったころに参加した、性と生殖に関する健康のトレーニングです。私の地域では女の子が13歳ごろからボーイフレンドと一緒に暮らし始め、17歳ぐらいまでに子どもを3人産み、ボーイフレンドに冷たくされて実家に戻るというのが当たり前でした。私の母は早すぎる妊娠を心配し、体の変化について教えてくれましたが、性交渉については教えてくれませんでした。プランのトレーニングで初めてきちんと学んだので、その後は母と話し合いました。

―10代後半になると、同世代の仲間のリーダーとなって活動しましたね。そのときにもっとも力を入れたのは？

ジェンダー平等の啓発活動です。この地域では、女の子であることが理由で教育や就職など、あらゆる機会が限られています。女の子と男の子で、どちらかが優れているのではなく、同じ権利がある、と世の中に訴えました。このような考え方を同世代に広めることができました。

―ジェンダー平等のほかに、プランを通して学んだことは何ですか？

教育の大切さです。学び続けることで、人生の選択肢が広がり、豊かな人生を送れると教えてもらいました。プランには、自分の力を信じ、最大限努力するべきといつも励ましてもらいました。恥ずかしがり屋だった私が、自信をつけて、人前で話せるようになったのです。

―日本のスポンサーの皆さんにメッセージを。

女の子も男の子も、よりよい人生が送れるように支援してくださって本当にありがとうございます。スポンサーの支援はとても大切です。支援を通じて、チャイルドの家族は教育の大切さや一人ひとりの子どもが大切な存在だと知ることができます。プランの活動はひとりのチャイルドの人生を大きく変える影響力があるのです。支援を続けてくださることで、たくさんの子どもたちが、教育やいろんなチャンスに恵まれます。

エリザベスさんのある日のスケジュール

AM	5：00	起床
	6：15	バスに乗ってプランのオフィスへ
	7：30	オフィスに到着。1日の業務をチェック
	8：00	チャイルドからスポンサーへの手紙を整理
PM	12：00	ランチ
	12：30	チャイルドの「一年の歩み」の作成
	3：00	スポンサーからチャイルドへの手紙をスペイン語翻訳
	4：00	帰宅



エリザベスさんのチャイルド時代の写真



桃井美鈴さん（前）と夫の奉彦さん

気持ちを共有する仲間と人づくり、地域づくり

桃井美鈴さん

数人で一緒にひとつのプロジェクトを支援する方法で、ご参加くださる方も増えています。2017年10月に募集したネパールにおける「女の子の自立支援プロジェクト」に参加し、ご支援くださっている桃井美鈴さんに、きっかけや思いを語っていただきました。

ネパールのスタディツアーへの参加がきっかけ

１９９０年代に新聞広告でプラン・インターナショナルを知り、小学生の子どもとチャイルドを交流させたいという思いから、家族でスポンサーになりました。２０１５年３月には、事務局主催のネパールのスタディツアーに夫とふたりで参加しました。そのときに、山間部の井戸建設を視察したところ、日本からの訪問者の私たちを大歓迎してくれたのです。このときにプランが建てた井戸がとても喜ばれ、役立っていることを実感し、この支援方法に関心をもったのがきっかけです。

同じ気持ちを共有する仲間

一人でひとつのプロジェクトをまるごと支援するのは負担がとても大きいですが、数人集まっての支援なら、私も参加できるかもしれないと考えました。それから2年後に寄付の募集があったのが、スタディツアーで訪問したネパールのプロジェクトでした。とくに困難な状況に置かれた女の子たちの自立を支援することに関心をもったのは旅行先で物乞いの子どもを見かけたことがきっかけです。「どうしてあげたらいいのだろう?」という問いかけへの答えのひとつのように思われ、この支援への参加を決めました。

うれしかったのは、友人も賛同してくれて、支援者の輪に加わってくれたことです。友人以外の支援者の方々との面識はありませんが、「大変な思いをしている女の子のために何かしたい」という同じ気持ちで集まった仲間のように感じています。いつかお会いできたらうれしいです。

長い時間をかけた人づくり、地域づくりが大切

「建物を建てるより、人を育てるほうが難しい」というネパールの現地スタッフが話した言葉が心に残っています。プランは緊急支援も行っていますが、平常時に質の高い活動をすることで、長い目で見ると、紛争や災害を減らせると思います。長い時間をかけた人づくり、地域づくりのような活動は、よりよい社会のための基本です。プランには、これからもそうした活動に注力してほしいです。



対象の女の子たちに現状、抱える困難、将来の目標などを聞き取り調査（ネパールの自立支援プロジェクト）

「一口100万円プロジェクト」とは

春と秋の年2回募集しています。これまで7年間で100人以上が参加され、活動地域の20万人以上の子どもと地域住民に変化をもたらしました。複数の方に一口100万円ずつご寄付いただき、ひとつの大きなプロジェクトを支援します。個別の提案書・報告書をお届けし、お名前入りのプレートを設置いたします。プロジェクトの訪問をすることもできます。

お気軽にお問合せください

一口100万円プロジェクトは、現在バングラデシュにおける「女の子の早すぎる結婚防止プロジェクト」への支援を募集しています。詳しくは同封のチラシをご覧ください。また次回募集につきましては、2019年4月送付予定の「プラン・ニュースNo.110」の同封チラシでお知らせします。ご意見・ご要望は、お気軽に担当までお寄せください。

寄付受付・企業連携担当　TEL：03-5481-7100/ Mail:hello@plan-international.jp



各店舗の会計レジに設置されている募金箱

イトーヨーカドー全店の会計レジに募金箱を設置

今年で3年目と継続して支援をいただいている株式会社イトーヨーカ堂。
今回は、「インドにおける児童労働をなくす地域づくり」プロジェクトへの募金にご協力いただいています。

国内のGMS（総合スーパー）として初めて実施したレジ募金

全国のイトーヨーカドーとザ・プライスでは会計レジに募金箱を通年設置し、お客さまと従業員へ募金を呼びかけています。２０１６年3月の開始以来、ひとつのテーマに偏ることなく、３カ月毎にテーマを変えて、さまざまな社会課題に役立てています。

小売業ならではの特性を生かして

毎日多くのお客さまが来店される店舗は社会課題の認知向上に貢献し、寄付の窓口になることができます。店内に置かれた募金箱のＰＯＰやポスターを目にして、お会計のついでに募金してくださるお客さまが大勢いらっしゃいます。従業員へも店内に告知することで社会課題への認識を深めることができます。

レジ募金を通じてのパートナーシップ

世界中の女の子への差別や暴力をなくすためにプラン・インターナショナルがグローバルに展開するBecause I am a Girlキャンペーンをきっかけにプランとの協同が始まりました。小売業はご来店されるお客さまも従業員も女性が多く、たくさんの寄付をお寄せいただいています。その後はジェンダー差別に限らず、難民問題などの世界的な社会課題となったテーマでも募金活動をされています。これまでにパキスタンの女の子のための小学校建設やシリア難民の教育に支援をいただきました。今年の9月～11月は「インドにおける児童労働をなくす地域づくり」のプロジェクトを実施中です。

プランには引き続き、収支の透明性を保ちつつ、世界の子どもたちのために、優先して解決すべき課題を情報発信すること、地域の自立につながる活動を継続することが期待されています。



店内各所に掲示されたポスター



記念プレートの前で校舎の完成を喜ぶ子どもたち

株式会社イトーヨーカ堂　ＣＳＲ推進部 兼 ダイバーシティ推進プロジェクトメンバー

合田悠理子さんのコメント

お客さまのお気持ちがむいたときに、支援ができる方法のひとつがレジ募金だと思っています。募金の方法に選択肢があることで、より多くのお客さまからの支援をいただけると感じています。1円からでも気軽に支援をすることができるので、私自身も買い物のついでにお財布にある小銭を寄付しています。自分の気持ちの一部が社会貢献につながっているのがうれしいです。今後も従業員も含め、お客さまが気軽に参加できる募金活動の場を提供していきたいです。

● 企業連携に関するお問い合わせ先：企業連携担当　TEL：03-5481-7100 / Mail:hello@plan-international.jp

チャイルドに会ってきました！

大好きな国で、多くの人たちと交流することができました



大学生のときにボランティアに参加したことなどがきっかけで、ミャンマーが大好きになったという小林さん。今年6月、チャイルドに会うため現地を訪れました。

スポンサー **小林真龍**さん／大阪府　チャイルド **アン・シネ**くん（訪問時7歳）／ミャンマー

母親へのサポートにも感銘

2016年に交流がスタートしたチャイルドのアン・シネくんが暮らすコミュニティは、空港近くのホテルから、車で2時間以上もかかる場所にありました。アン・シネくんとその家族、コミュニティのリーダーの方など大勢の人が出迎えてくれて、さまざまな話をしました。

アン・シネくんのお父さんはマレーシアに出稼ぎに出ていて、3年に一度ほどしか家に帰りません。これはミャンマーの地方の村では珍しいことではなく、父親たちはほかにもフィリピンや韓国など、アジア各国に働きに出ているそうです。

父親不在で子どもの数も多いこうした地域の母親たちの育児をサポートするため、プラン・インターナショナルは基本的な読み書きを教えたり、育児指導をしたりしています。今回、私も母親むけのトレーニングを視察しましたが、お母さんたちが楽しみながら参加している様子を見て、これは非常に意義ある活動だなと実感しました。

お土産として持参したこんぺいとうを、アン・シネくんがとても気に入ってくれたのもいい思い出です。そして最後には、彼から絵のプレゼントをもらって大感激でした。



アン・シネくんの家族やコミュニティの人たちといろいろな話ができました



トレーニングで学んだことをほかのお母さんにも伝えていきます

※現在、チャイルドとの面会は、自宅ではなく学校などの公共施設で行われています

楽しみながらチャイルドへ手紙を書く会を開催

広島市在住の小村直子さんは、「プラン広島の会」（※）の活動として、毎月チャイルドへ手紙を書く会を開催しています。小村さんは、「手紙は書きたいけれど、何を書いたらよいのか迷う」という方が多いと実感し、そうした方々をサポートしたいとの思いから、この活動を続けているそうです。

「手紙を受け取るチャイルドのことを考えながらみんなで気楽におしゃべりしながら手紙を書いています。私はチャイルドと手紙のやり取りができる世界が好きです。国同士の交流が平穏にできるからこそ可能なこと。世界のどこかに私のためにペンを握り、一文字一文字書いてくれる小さな友だちがいる。これは素敵な経験です。チャイルドに手紙を書くのを楽しんでくれる方が増えればうれしいです」



イベントにも出展して、プランの活動を広めてくださっている小村さん（中央）

※プラン広島の会：全国に約30ある「プラン支援者の会」のひとつ。支援者の皆さんによる自主運営組織で、勉強会・懇親会・プラン職員の報告会などを行っています。「プラン広島の会」に関するお問い合わせはこちらから Mail：naokomura@kej.biglobe.ne.jp

アドボカシー

女の子や若い女性にとってのまちの安全性調査

まちの安全性は、基本的人権を守り、社会参加を促すうえで大切です。プラン・インターナショナルは、2018年の「国際ガールズ・デー」にむけて、東京を含む世界22都市で、若者や専門家と協力しながら、公共交通機関や法整備などから見て、女の子や若い女性にとって安全なまちかを調査しました。課題とともに解決につなげることを目指しています。

日本ではプランのトレーニングを受けた学生が中心となって、女の子や若い女性の安全レベルや暴力やハラスメントに対する若者の意識を探るため、8月～9月にかけて15～25歳の男女を対象に意識調査を実施しました。9月には結果分析を行い、関係省庁との意見交換を行うための提言書を作成しました。東京を含めた世界22カ国の調査結果は10月にウェブサイトで発表予定です。

https://www.plan-international.jp/





「トレーニングに参加し、改めてジェンダー不平等は世界共通の問題であると認識しました。学んだことを基に、若い世代の視点からより良い提言をしたいです」

横田さん（高校3年生）

「性差別の現状、性的同意についての実践的なことを学んだので、これまで以上にジェンダー平等意識を周りの若い世代に広めていこうと強く思いました」

土田さん（高校3年生）

国内活動

愛媛県の被災地で学用品を支給

～平成30年7月豪雨緊急支援～

2018年7月、西日本を中心とした記録的集中豪雨により中国・四国地方に、大規模な土砂崩れや洪水が発生し、甚大な被害が出ました。プランは7月から愛媛県西予市に緊急支援チームを派遣し、子どもたちが安心して過ごせる子どもひろばの運営を中心とした活動を行いました。

2018年8月28日、新学期が始まる前に、洪水や浸水被害で学用品を失った子どもたち34人に、筆記用具や運動靴などの学用品一式がプランから提供されました。学用品を受け取った子どもたちは、「新学期が始まるころに、学校生活で必要なものをもらえてうれしくなりました」と話してくれました。



学用品支給は西予市教育委員会と連携して実施しました

COFFEE BREAK　職員が紹介するカルチャー

難民キャンプを舞台にした絵本

紹介する人：プログラム部　前田朋穂 職員

難民キャンプで出会ったリナとフェローザ。救援物資のサンダルをきっかけに、少しずつ仲良くなっていきます。自分の悲しみを必死にこらえて、友だちに大事なものを差し出すのは、二人ともここへ来るまでに大切な家族をなくしているからでしょうか。訳者は当時高校生。相手を思いやり分かち合う心を"ともだちのしるし"と捉えた邦訳も秀逸です。



『ともだちのしるしだよ』
カレン・リン・ウィリアムズ著／岩崎書店

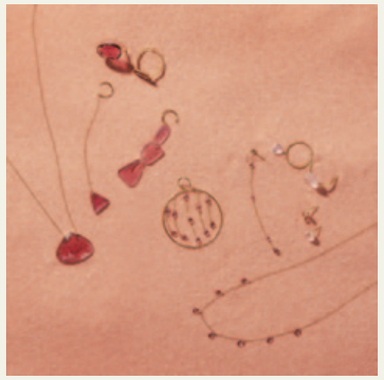
プランへの寄付となる取り組みのご紹介

途上国の女の子の幸せを願って ARTIDA OUD（アルティーダ ウード）

アパレルから生活雑貨までさまざまなブランドを手掛けるサザビーリーグから、2018年4月、初のEC※限定ジュエリーブランドARTIDA OUD（アルティーダ ウード）がデビュー。本ブランドでは、さまざまな困難に直面する途上国の女の子たちの幸せを願い、購入時に付与されるポイントをガールズ・プロジェクトに寄付できる「ポイント募金」とすることで、プラン・インターナショナルを支援してくださっています。

さらに今年は、国際ガールズ・デーに賛同し、女の子の権利促進を願って特別にデザインしたジュエリーが2018年10月4日より登場！　やさしいピンク色の石をあしらった、ピアス、リングやネックレスが勢ぞろいします。詳しくは下記のサイトをご覧ください。
https://www.artidaoud.com/

※EC（Electronic Commerce）：電子商取引の略。インターネット上で物やサービスを売買すること。



キュートなピンク色のジュエリーを身につけて、世界の女の子を応援！



昨年のWomen in JAZZコンサートより

プランへの寄付となる取り組みのご紹介

Women in JAZZ vol.9 LOVE for Girls 世界の女の子に、生きていく力を。

株式会社ギャンビットが、2010年より主催している「Women in JAZZ LOVE for Girls　世界の女の子に、生きていく力を。」は、豪華な顔ぶれの女性ジャズアーティストたちが繰り広げるステージを楽しみながら、途上国の女の子たちに思いを馳せるコンサートです。プランのBecause I am a Girlキャンペーンに賛同し、チケット代金の一部および会場に設置された募金箱からのご寄付で、プランのガールズ・プロジェクトをご支援いただいています。

第9回となる今年のWomen in JAZZは、10月27日（土）に開催されます。詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。
http://women-in-jazz.net/

領収証明書のお届けは2019年1月です ～確定申告による還付金は最大4割！～

皆さまからの寄付金は、確定申告により税法上の優遇措置を受けることができます。「所得控除」または「税額控除」のいずれか有利な方式を選択し、寄付金控除を受けることができます。2018年1月1日～12月31日までに受領したご寄付の領収証明書は、2019年1月下旬にお届けいたします。紛失による再発行はできませんので、申告時まで大切に保管してください。なお、以下の点にもご注意ください。

■今回発行分より領収証明書の名義を変更される方は、12月20日（木）までに書面（メール・FAX）または電話にてお知らせください。

■クレジットカード・コンビニ決済でのご寄付は、決済日ではなくカード会社・決済代行会社からプラン・インターナショナルへ入金された日が受領日となります（12月のクレジットカード・コンビニ決済によるご寄付は2018年分の領収証明書に含まれません）。

■寄付金控除の申告は、年末調整で行うことはできません。

■一部の自治体においては、個人住民税の寄付金控除の対象となる場合もございます。詳しくはお住まいの都道府県や市区町村にお問合せください。



この封筒でお届けします。
必ず中をご覧ください

【ご連絡・お問い合わせ先】
領収証明書担当
TEL：03-5481-6100（平日9：00～17：30）
FAX：03-5481-6200
Mail：service@plan-international.jp
※ご連絡時には、SP（スポンサー）番号も併せてお知らせください

※「プラン・ニュース」No. 110は、2019年4月上旬にお届け予定です

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

あなたも参加しませんか？

プラン広島の会 f

❶「お手紙書き会inまちづくり市民交流フェスタ（ブース出展）」
■ 日時：10月13日（土）～14日（日）10時30分～15時30分
■ 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ北棟4階／広島市中区袋町6-36

❷「お手紙書き会」（毎月第3日曜日開催）
■ 日時：11月18日（日）、12月16日（日）14時～16時
■ 会場：広島市まちづくり市民交流プラザフリースペース（2Fまたは3F）／広島市中区袋町6-36

❶❷共通
■ 内容：チャイルドへの手紙書き
■ 参加費：無料、事前申込不要
■ 連絡先：小村
Mail：naokomura@kej.biglobe.ne.jp

多摩SP会 W

「映画『ソニータ』無料上映会開催」
■ 日時：10月20日（土）13時30分～（13時より受付開始）
■ 会場：立川市子ども未来センター B1多目的室／立川市錦町3-2-26
■ 内容：「国際ガールズ・デー全国上映キャンペーン」の一環として、映画『ソニータ』を上映します。どうぞお気軽にご参加ください。映画『ソニータ』については、下記のウェブサイトをご覧ください。
http://unitedpeople.jp/sonita/
■ 参加費：無料、事前申込不要
■ 連絡先：矢島
Mail：tama-web3@ngo-npo.org

プラン群馬の会

「第28回国際交流の集い」に出展します！
■ 日時：10月21日（日）11時～15時
■ 会場：ビエント高崎／高崎市問屋町2-7
■ 内容：高崎市国際交流協会主催の恒例イベントに初出展します。県内在住の外国人の方が参加され、いろいろな国のショーや食べ物・民族衣装などが体験できます。どうぞお気軽に足をお運びください。
■ 連絡先：星野
Mail：kaoru_hoshino@hotmail.com

プラン・長崎ペアレントの会 W f

「第20回ながさき国際協力交流フェスティバル」に参加（ブース出展）
■ 日時：10月28日（日）11時～16時
■ 会場：長崎県出島交流会館／長崎市出島町2-11
■ 内容：長崎県下の国際協力・国際交流団体などが出展する催しに、3回目の参加です。会のブースではプランについての展示、フリマ、折り紙などで来場者と交流します。ぜひお越しください。
■ 連絡先：深堀
Mail：plan.nagasaki@hotmail.co.jp

プラン名古屋の会 W f

❶「国際交流フェスティバル〝ワールド・コラボ・フェスタ2018〟」に今年も参加します！
■ 日時：11月10日（土）～11日（日）10時～17時
■ 会場：オアシス21「コラボ広場」一般ブースA1番（ワールドステージ正面）／名古屋市東区桜1-11-1
■ 内容：プラン・インターナショナルの紹介や資料配布をします。お気軽にお立ち寄りください。たくさんの方の来場をお待ちしております。なお、両日とも終了後、懇親会（夕食会）があります。どなたでも参加自由です。ぜひおいでください。
■ 参加費：無料
※当日スタッフ募集：資料配布等のお手伝いをしてくださる方／準備及び撤収のお手伝い（10日9時30分～、11日17時～）をお願いできる方数名を募集しています！（時間は応相談）下記、プラン名古屋の会までご連絡ください。 初めての方でも大丈夫！ まずは、お問い合わせください。

❷「クリスマス会」
■ 日時：12月8日（土）　10時～15時
■ 会場：トリオグランディール2階（エレベーター降りてすぐ）／名古屋市中区栄1-23-28
※地図はこちらをご覧ください
http://www.trio.co.jp/company-network.html
■ 内容：1年の振り返りとクリスマス会（ビンゴでプレゼント交換、懇親会）
■ 参加費：3,000円（飲食代）
■ 持ち物：500円程度のプレゼント（プレゼント交換用）
※参加ご希望の方は、お料理の手配がありますので12月4日（火）までに下記までご連絡ください。お料理やお菓子、お飲み物の持ち寄りも大歓迎です！

❶❷共通
■ 連絡先：プラン名古屋の会
Mail：info@plan-nagoya.sakura.ne.jp
http://plan-nagoya.sakura.ne.jp
Tel：090-8076-2278（安藤良一）

山形・秋田プランの会

「第32回山形・秋田プランの会」
■ 日時：11月11日（日）13時～16時30分
■ 会場：山形テルサ3F会議室／山形市双葉町1-2-3
■ 内容：プラン職員の講演、チャイルド情報交換会、チャイルドへの手紙書き、参加者同士の交流
■ 参加費：500円
※11月7日（水）までに下記へお申し込みください。
■ 連絡先：岩谷
Mail：tadaya-i@chive.ocn.ne.jp

プラン・札幌の会

「プラン職員による活動報告会」
■ 日時：11月18日（日）13時～16時
■ 会場：かでる2・7／札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル
■ 内容：プラン職員による活動報告、参加者同士の交流
■ 参加費：無料
■ 連絡先：西崎
Mail：i-nisitaka@softbank.ne.jp

プラン博多

「地球市民どんたく2018」に今年も参加！
■ 日時：11月18日（日）10時～16時
■ 会場：天神中央公園／福岡市中央区天神1-1
■ 今年のテーマ「つながりあう世界と福岡～SDGs実現のために私達ができること～」
■ 参加費：無料（申込不要）。お気軽に遊びに来てください！
■ 連絡先：松尾
Mail：planhakata2017@gmail.com

プラン旭川の会

「忘年会のお知らせ」
■ 日時：12月1日（土）18時～
■ 会場：飲食店など集まる人数により決定
■ 内容：プラン旭川の会では、会員の親睦のために忘年会を開催しています。旭川地区にお住まいの皆さんもこの機会にぜひ参加してみませんか？
■ 参加費：4,000円程度　ご参加いただける方は、11月5日（月）までに下記へ連絡をお願いします。
■ 連絡先：山岡
Mail：yoko28724172@docomo.ne.jp
Tel：080-2872-4172

PLAN サポーターズ（札幌）

「北海道国際協力フェスタ2018」出展！
■ 日時：12月15日（土）11時～17時
■ 会場：チカホ（札幌駅前通地下広場）北3条交差点広場
■ 内容：ピンクコーデのブースで、例年大好評のチャリティネイル（Because I am a Girlオリジナルデザイン）を実施。ぜひご来場ください！
※当日スタッフ参加のお問い合わせは、10月27日（土）までに下記へご連絡ください。
■ 連絡先：松澤
Mail：namaskar@jcom.home.ne.jp

W ウェブサイト f フェイスブック　左記アイコンのある会については、以下のプラン・インターナショナルのウェブサイトから、各会のページにリンクできます
https://www.plan-international.jp/supporter/plankai/　■ 支援者の会に関するお問い合わせ先：プログラム部　TEL：03-5481-6100

ZIMBABWE ジンバブエ

チャイルドの一日、紹介します！

プランのスポンサーと交流しているチャイルドは、毎日どんな生活をしているの？　そんな疑問にお答えする新シリーズの第2回！



6：00　起床

朝起きたら朝食のポリッジ（おかゆ）作り。私には双子の姉妹のアネレと、ほかに3人の兄弟がいます。お母さんは南アフリカに出稼ぎに行っているので、私たちの世話は祖母がしてくれます。



8：00　登校

朝食後はお風呂に入って制服を着て、きょうだいと一緒に急いで学校にむかいます。学校までは4㎞あるので、8時の始業時間に間に合うよう、走って行くこともよくあります。



サリボナニ〜！
私はクワネレ。
12歳の女の子です。
今回は私の一日を
紹介します。

サリボナニー（Salibonani）とは、私たちンデベレ族の言葉で「こんにちは」という意味なんです！



8：00 ～ 16：00　授業

私は今6年生。得意な科目は算数と国語（ンデベレ語）です。昼休みにはアネレと一緒にお弁当を食べます。それから毎週水曜日の放課後には、女子サッカーチームの練習にも参加します。私はサッカーが大好きです！





17：30 頃　帰宅

学校から家に戻ったら、すぐ制服から着替えて夕食。食べ終わったら、アネレと一緒に食器洗いをします。そのあとは宿題をして、祖母のお手伝いで水を汲みに行ったり、穀物を挽いたりすることもあります。就寝はだいたい20時くらいです。

●シリーズ動画「チャイルドの一日」 毎週水曜日更新中！ ウェブサイトでは、
各国のチャイルドにビデオを渡し、それぞれのある一日を撮影してもらった動画をご覧いただけます。

https://www.plan-international.jp/join/sponsor/oneday/



PLAN NEWS
2018 AUTUMN NO.109

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22 サンタワーズセンタービル 10F
TEL：03-5481-6100　FAX：03-5481-6200
www.plan-international.jp

表紙写真：南スーダン難民（ウガンダ）の女の子　撮影：金井塚太郎